

議長(上田順康君)順番24、22番 阪本君。

〔22番(阪本久代君)登壇〕

22番(阪本久代君)通告に従いまして一般質問を行います。3項目あります。

まず、第1点は、旧高野口町で行っていた市民にとってよい施策を橋本市全域に広げようです。昨日の18番議員の質問と重なりますが、再度質問させていただきます。

はじめに、日本共産党橋本市委員会では、合併した新橋本市のまちづくりについてアンケート活動を行い、市民の皆さんからたくさんのご意見をいただきました。旧高野口町では合併後にアンケートを行いました、「合併してよくなったように思う」と答えた方は1人もいらっしゃいませんでした。「合併して悪くなったように思う」という方が、「まだわからない」と答えた方よりも多かったです。

その理由の代表的なものを五つ紹介します。一つ、介護保険料、くみ取り料金等の公共料金値上げが生活を圧迫する。一つ、役場がなくなり出張所になったが、市役所まで行かないとできないものがあり、不便だ。1年後には廃止、ぜひ支所を残してほしい。一つ、水道は今のまま残してほしい。独居老人の水道料金の割引がなくなり、困っている。一つ、ごみ袋、まちがなく使いにくい。一つ、コミュニティバスを走らせてほしい。

これら五つのうち水道について質問を行います。アンケートには、「水道代が高くなった」「将来、水道代が上がるので心配」「水が悪くなる」「上水道はいつまでも高野口町の水道をお願いします」「高野口のおいしい水をなぜなくしてしまうのか。永久的にこの水を飲み続けられることを祈る」「水道料金の値上げは納

得いかない」と、これらの声が寄せられました。

私としましては、水道料金はまだ上がっていないのになぜ高くなったという声上がるのか不思議に思っていたのですが、旧高野口町では、独居老人は基本料金が半額だったので、実際に倍の料金になった方がいらっしゃるのです。合併しなければ財政が破綻するが、合併すれば市民サービスは低下しないといって合併したのではないのでしょうか。高齢者にとっては、税制の改悪で増税になり、介護保険料は上がり、年金の受給額は下げられ、医療についても改悪されようとしています。さらに水道料金まで上がったのでは、合併しなかったほうがよかったと思うのではないのでしょうか。

合併してよかった、住みやすくなったと実感するためには、独居老人の水道料金の基本料金を半額にするという施策を復活させ、橋本市全体に広げたほうがいいのではないのでしょうか。

二つ目に移ります。二つ目は、城山台内の市道の改修についてです。

城山台などの団地内の道路も年月がたち、傷んできています。へこんで穴があいたところなどは応急の補修をしておりますが、補修の跡が幾つもあり、でこぼこになっているところがあります。見にくいとは思いますが、これがその場所の写真なんです。何カ所も穴をふさいだ跡があります。応急の補修だけではなく、抜本的にアスファルト舗装をやり直す必要があるのではないのでしょうか。また、道路改修の基準、優先順位のつけ方はどうなっているのですか。

3番目に移ります。菜の花でまちおこしについてです。

橋本市の人口減に歯どめをかけ、魅力あるまちづくりをするにはどうすればいいか、橋本市にあるもので何かできないかと考えているときに、香川県高松市で第6回全国菜の花サミットが開かれたという新聞記事を見つけました。その記事を紹介します。

「黄色い花たちの挑戦、ディーゼルで開く21世紀の革命」をテーマに、全国菜の花サミットが13日、2日間の日程で香川県高松市で始まりました。化石燃料の軽油のかわりに菜の花から採る菜種油や使用済みの天ぷら油を燃料化したバイオディーゼル燃料を利用した各地の取り組みを交流しました。日本の遊休農地は130万ヘクタールもあり、今、菜の花の出番。軽油にかわるバイオディーゼル燃料を資源エネルギーとして位置づけ、農地の再利用と新産業（雇用）を生み出すチャンスに。

この記事を読み、橋本市には休耕地がたくさんあり、今後、団塊の世代の人たちが定年退職を迎えます。その人たちの生きがいづくり、健康づくりにぴったり、菜の花で特色あるまちづくりができるのではないかと思います。

市長は、「住んでよかったと思えるまちづくり」「このまちに住んでみたい」「まちも元気・人も元気なまちづくり」を基本に市民と一緒にまちづくりを進めると4月臨時議会で表明されました。そして、生ごみの堆肥化、ごみの減量とあわせた花いっぱい運動を進めておられます。その政策とも合致するのではないのでしょうか。

インターネットで調べてみますと、これは菜の花プロジェクトと言われている、44都道府県102団体がこのネットワークに参加しています。和歌山県では参加している団体はありません。

菜の花を観光資源にし、廃食油のリサイクルもでき、定年退職後の生きがいの一つにもなる菜の花プロジェクト、新しいまちづくりの一つとして取り組んでみませんか。

以上です。

議長（上田順康君）22番 阪本君の一般質問に対する答弁を求めます。

市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

市長（木下善之君）阪本議員の3番目の菜の花でまちおこしというご質問に、まずお答えしたいと思います。

菜の花プロジェクトの提案でございますが、この取り組みは、地域自立の資源循環リサイクルとして滋賀県内の市町村を中心に全国に広がりを見せていますが、本市におきましては、平成17年度より全国的にも珍しい市独自の取り組みである花と緑のリサイクル事業を展開していますので、この事業をさらに推進してまいりたいと考えております。

資源循環という趣旨につきましては、菜の花プロジェクトとよく似たところもございますが、本市の場合は生ごみの減量を主としており、家庭から出る生ごみから堆肥をつくり、花や野菜の土として利用し、循環型社会の実現をめざすものであります。

特に、生ごみ堆肥化事業では、耕作地のある家庭が耕作地のない家庭の生ごみを引き受け、堆肥として活用する方法で、橋本市衛生自治会が啓発推進活動の中心を担い、市は必要な資材等を支援しておるところでございます。

このような仕組みは全国的にも前例がなく、区長さん方のごみ減量に対する熱意と地道な努力により、平成18年5月末現在、58グループ、736世帯がこの事業に参加いただいております。また、コンポストや電気式生ごみ処理機での処理を含めると、旧橋本市の約25%の

世帯が生ごみの減量に取り組んでいることとなります。

旧高野口町につきましては、実態把握のため、まだ現在では調査中でございますけれども、阪本議員ご提案の菜の花プロジェクトについて、収穫した菜種から菜種油をつくったり、廃食油を回収し、軽油の代替燃料への加工を行うこととなれば、費用対効果を十分検討する必要がございます。現時点で実施は困難であります。まちを菜の花でいっぱいにするということは、本市の現在取り組んでおります花とみどりのリサイクル事業の趣旨と共通する部分も多くございます。菜の花の栽培については、今後の検討課題とさせていただきますと考えております。

なお、残余の件につきましては、担当参与よりお答えいたします。

議長（上田順康君）建設部長。

〔建設部長（坂本信良君）登壇〕

建設部長（坂本信良君）橋本市の市道管理は、1,863路線、延長約660kmとなっており、日常の道路管理は、職員のパトロール、市民生活ポストネット事業による通報、区長さま及び市民の方々の通報等により管理している現状であります。通報により緊急修繕の必要な箇所、簡易な箇所については職員で応急対応し、できない箇所は、舗装業者と年間契約を締結し、予算の範囲で緊急修繕を行っております。

優先順位の判断方法は、各地区より要望をいただいた箇所の現地調査を実施し、緊急度、事業効果等を検討しながら予算の範囲で箇所づけを行っておりますので、ご理解を賜りますようお願いいたします。

議長（上田順康君）上下水道部長。

上下水道部長（井手上治巳君）独居老人に対する水道の基本料金についてであります。18番議員にもお答えしましたように、合

併協議会において、旧高野口町の料金体系のうち議員おただしの独居老人の用途区分は合併時に廃止すると決定され、現在に至っております。

なお、水道事業会計は、水道を利用する人からの料金で施設を整備・運営していくという考えから独立採算性を建前としており、また、公平な取り扱いが原則となっております。

また、独居老人につきましては、施策として取り入れられている自治体が少ないことから、合併協議において見送られた経緯がございます。ご理解のほど、よろしく願い申し上げます。

議長（上田順康君）22番 阪本君、再質問ありますか。

22番 阪本君。

22番（阪本久代君）第1項目めについて再質問を行います。

きのうと全く同じ答弁なんですけれども、きのう、健康福祉部長が年8,760円の補助がどれだけ役に立つのかというようなことをおっしゃいました。しかし、3月議会で介護保険のことを聞いたときに、年金額が140万円の方は年金受給者総数の約17%、その平均年金額は約75万1,000円という答弁をいただいています。年金75万円の方にとっては8,760円という金額は大きな意味を持つのではないのでしょうか。

また、橋本市の水道料金は高いというふうによく言われます。合併協議の中ではいったんなくなっていますが、住みやすい橋本市、住んでよかったと思える橋本市にするということ言えば、福祉の政策として復活させるというか、そしてまた、橋本市全域に広げることが高齢者の方に大変喜ばれるのではないかと思うんですけれども、市長、木下市政の福祉政策の一つとして再度検討し直すということはできないのでしょうか。答弁

をお願いいたします。

議長（上田順康君）健康福祉部長。

健康福祉部長（上田敬二君）きのうと同じような答弁になってしまいますけれども、福祉の現場における立場からご答弁させていただきます。

人が生きていく上で必要なライフラインに係る公共料金、これについては利用者が等しく負担し、事業を継続し、支えていくものだと思っております。しかし、負担しようにも公共料金を支払うことができない人がいることも承知しているところでございます。

生活に困窮している方につきましては、人が人として生きていく上で必要な最後のセーフティネットとして生活保護制度があります。また、生活を改善させる目的としまして、各種の高齢者、特にひとり暮らし、独居老人を対象にした制度があります。例えば、現在行っておりますのは移送サービスですとか、寝具類の洗濯・乾燥サービスですとか、緊急通報装置もそうです。「愛の一声運動」「あったかコール」、あるいは配食サービスとか軽度生活援助サービスも行っております。これらと、現在、介護保険制度と組み合わせながら高齢者福祉政策を全般的に運用しておりますところでございます。

介護保険制度は別にしまして、これらは基本的に業者さんに頼んで、自己負担の伴うサービスばかりでございます。これらにつきましては、ほとんど市の税を用いまして無料にしておりますとか、一部の自己負担をいただいで運用しております。

水道料金の減免制度は、ひとつとらえれば、阪本議員おっしゃるように、なぜできないかという話になりますけれども、いろんなほかの独居老人対象のサービスも展開しておりますので、こういう現下の、先ほどから議論ありますような財政事情の中、水道料金の軽減

措置については今回は考えておりませんので、ご理解をお願いします。

議長（上田順康君）22番 阪本君。

22番（阪本久代君）先ほども言われましたけど、やっぱりお水というのは命に一番直結する部分だと思うんです。今のところは考える予定はないということなんですけれども、確かに生活保護もあります、境界線の方がいらっしゃることも確かですので、今はだめだと言われても、これからも何度も要求していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

2番目の市道の改修について再質問いたします。

今も部長から答弁がありましたけれども、橋本市の市道の総延長は660kmと、たくさん市道があります。きのう、おとつい、どちらだったか忘れましたが、市長は、市道の維持修繕費を減らして企業誘致に1,000万円回しても将来を考えたら価値があるというふうな趣旨のことを言われたと思うんです。

しかし、先ほども言いましたけども、至るところで市道は傷んできていまして、結局、市道がでこぼこになっていて被害に遭うのは、車は四輪ですから多少のでこぼこは何とかなりますけど、やはり歩行者、特に足腰の弱った高齢者の方であったり、ベビーカーの方であったり、自転車やバイクなどの二輪車の方が、道路ががたがたのことによって被害を受けることが一番多いと思うんです。

市民の安全・安心のためには市道の維持修繕というのは欠かせないと思うんですけれども、今度の予算を見ましても、市道の維持修繕費というのは4,000万円になっていまして、昨年度、橋本市の17年度の予算は骨格予算ということで、2,000万円しかなかったんです。けれども、その前の16年度では5,600万円ついていました。旧橋本市よりも合併して市道も

長くなった。にもかかわらず、市道の維持修繕費は少なくなっているんです、予算上は。だけでも、言えば、やっぱり市民の安全を守るためには、それは優先順位とかはいろいろあると思うんですけれども、維持修繕のほうにも力を入れていただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

議長（上田順康君）建設部長。

建設部長（坂本信良君）現在の市道の緊急修繕につきましては、先ほどご答弁させていただいたように、市民の交通の安全を図ると、安全な走行性を図るということで、区長さんなり、また、郵便局の配達される方等、先ほど説明させていただきましたように、ポストネット事業がございますので、その通報によって通報を受けたものについては当日もしくは翌日ということで、事故の発生しないような対応の仕方しております。

それから、議員おただしの全面的な舗装につきましては、当初予算ベースでいきますと、むしろ今年のほうが約4,000万円ほど増えていると。ただ補正がありましたので、私、補正の数字は入れてございませんけれども、約4,000万円ほど建設課の維持修繕費は増えているという数字が出てきております。

今後の対応につきましては、やはりアスファルト舗装といいますのは、耐用年数が10カ年ということになっております。実際は10年以上ご利用いただいているわけでございますけれども、その場合でもやはり交通量の多いところにつきましては、また、地盤の悪いところについては傷みが激しいということになりますので、その部分につきましては全面的ということではなくして、部分的に切削なり、全部めくって下からやり変えるなりしながら対応しているということになるかと思えます。全面的にやろうとすれば、工事費の確保が非常に難しいということもございますので、

その辺だけのご理解をいただきたいというふうに思います。

議長（上田順康君）22番 阪本君。

22番（阪本久代君）維持修繕に力を入れていただくよう要望して、3番目に移らせていただきます。

先ほど市長からもお話ありましたけども、もう少しだけ、菜の花プロジェクトについて紹介したいと思います。

先ほどもありましたが、もともと琵琶湖の水質悪化を防ぐ運動とドイツの菜種油プログラムとをあわせて作り上げられてきたものです。ドイツでは、1970年代に世界を襲った石油危機を教訓として、資源枯渇が考えられる化石燃料に頼らない、しかも温室効果の高い、二酸化炭素を抑える化石代替エネルギーとして菜種油の燃料化計画を進めてきました。資源作物としての菜種に注目し、休閑地を利用して食料としての菜種ではなく、エネルギーを生み出すためにこの菜種栽培を進めてきているんです。

この植物油から精製したバイオディーゼル燃料というのは、従来の軽油よりも含有有害物質の量が少なく、酸化イオウはほとんど出ません。また、軽油で走っているディーゼルエンジン車にそのまま利用できます。京都市では市バスとごみの収集車、大阪府箕面市ではごみ収集車、兵庫県伊丹市ではごみの収集車にこのバイオディーゼル燃料を使っています。また、徳島県吉野川市学校給食センターでは、学校給食に使用した廃食油をバイオディーゼル燃料に精製して、給食の配送車に利用しています。

兵庫県津名郡五色町では、ウエルネスパーク五色というのがあるんですけども、このオープンに合わせて菜の花を同公園の周辺に栽培したのが始まりで、1997年、町内の主要道路沿いの休耕田で菜の花を栽培する菜の花

街道事業というのがスタートしました。その後、栽培面積を広げるとともに、2001年秋にはこの菜の花プロジェクトの取り組みを始めて観賞用の菜の花に加え、油用のキザキノナタネを約1ヘクタールに試験的に種をまきました。翌年、40アールを収穫して、約500kgの菜種を収穫し、161kgの菜種油を搾取しました。2003年にバイオディーゼル燃料精製プラントを導入、公共施設等の廃食油を回収して、町の公用車に燃料として供給しています。ウエルネスパーク五色では、毎年、菜の花が満開を迎える3月下旬の日曜日に菜の花まつりというのを開催しています。

最初から地域循環のサイクルができなくても、菜の花を中心にしてどこからでも始めて、最終的には循環になるような形になればいいと思うんですが、先ほども言いましたけども、本当に橋本市には休耕田がたくさんありますし、また、これから定年退職を迎えてボランティアをしたいという方というか、生きがいを求めている方もたくさん出てこられると思うんです。そういう人たちと一緒に特色あるまちづくり、魅力あるまちづくりにぜひ、この菜の花を使ったまち起こしというのも、再度、検討してみてもどうかと思うんですけれども、いかがでしょうか。

議長（上田順康君）市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

市長（木下善之君）阪本議員からいつ私に回ってくるかなと思って待っておったんですが、菜の花でまちおこしということで、本当に結構なお話を聞かせていただいて、私も喜んでございますので、今度、実行委員長はぜひとも阪本議員にお願いしたいなと実は思いながら、さっきから考えておったわけでありませう。

さて、私はなぜこれをやかましく言うかと言いますと、今度、九重にも、小学生の皆さま

んと私も混ざって、コスモスの種をどっとまいてイベントをやろうかということもどんどん入ってきておるんですけども、それはそれとしまして、実は、やはり、合併しまして、それぞれ市民の皆さんが本当によかったなというまちづくりをするためには、できる限り、今の財政規模からすると抑えさせていただかないかんわけでございますが、入るのも考えられないかんですね。抑えるばかりで抑えてしもうて、やっぱり出を少なくして入りを多くせないかんですね、基本は。このことが職員全部に徹底していきたいと思うわけでありませう。財政厳しいからどんどん絞り上げて、菜種の油絞りみたいなものですか。そればかりではだめやと私は思うんです。

私は去年就任させていただいて、やはりこれからの長期総合計画にも組み込んでいかないかんと思うのでございますけれども、何とかしてやっぱり若者が働ける場所、これが基本やと思うんです。そうして、来られて働く場所、この間からも言いましたけれども、その宅地は3,500ほどあったということをお願い上げた。これ、1年以内に3,500ほど売れませんけども、売れたと仮定したら、これ、大分のあるものがあるんですよ。そういう計算式にあいなってくるわけでございます。

そうやってまいりますと、リサイクルで堆肥をつくってプランターへ、それも私とこ、30ほどプランターへと生ごみで堆肥をつくって花を咲かせておるんですが、これは職員みんな議員も去年の9月に決めていただいておるので、みんな堆肥にさせていただいておると私は思っておるんです。それで花がどっさり咲いたと思うんですが、そういう花の咲かせ方もございますし、今後のプランターへ持っていく場合にはそれだけの量ではなかなか生ごみを消化できません。これもひとつまた今後の課題で、別途の方法で考えなけ

ればならないと思いますが、やはり橋本市の魅力というものをつくり上げられないかん。

そのためには花ということを持ち出してあるんですけども、ひとつ、この間からも研究しまして、そして、コスモスの種をある人から1kgほど分けていただいたんです。無償でいただいた。それを今、委託をしてボランティアで種まいていただいて、種とりをお願いしておるんですよ。この間も現地を見てきたんですが、あやの台の法面ありますね、あそこへ種をまいて、そうして秋にどれだけ生えるか、テストを今やっておるんです。職員に指示してテストをやっておるんです。それでうまく生えてきたら、今度はそれで種とりしようと思うんですよ。こういうのもボランティアというか、それに近いような形でつくっていただいて、種とりです。

どうして種をとっていきかって。菜の花なんか種とりの話で、そうして種をとったやつを多量にまいて、それで油を有効に利用したり、そういう村おこし、これは非常にいいと思うんですが、コスモスの種は1kg1,000円、これは高いんです。菜の花は割に安い。1リットル3,000円です。今、ヒマワリの研究もしておるんですよ。秋にはコスモス、春には菜の花、夏にはヒマワリ、これを山はのけて200㎡の、後へいつ到達するかなと、全部まくという、その種とり。これを阪本議員が中心になって実行委員会を立ち上げて、そして、村、地域皆挙げて、種とりに汗をかいてもらって。

その種とり、私、考えておるのは、来年ぐらいはたくさん種がとれるでしょう。これから計画していったら。ヘリコプターをチャーターして、それでまくんですわ。病院のぐるりのペンペン草の生えたところ、あれからあやの台、ヘリコプターで皆まく。ヘリコプター代はご寄附を頼んで、金ないから。寄附寄

せてヘリコプターに乗ってもらって、まちを見てもらいながら、乗り賃で種をまくと。この計算もしておるんですけども、そうしたら、病院のぐるり、私も夢をみておるんですがね、真っ赤にコスモスの花が咲いた夢、そしたら花園の中に病院がぱっと建っておるんですな。それは病気も治りますよ。

やはり高野山へどんどん行かれる。皆さん行かれるでしょう。橋本市は何もない。皆通過される。これを花でとめていこうと。そして散策していこうと。この散策は、橋本市内するのに1週間ぐらいかかるかわかりません。四国の八十八カ所を上回るようなコースを決めて、そして、歩いてぐらいの構想は持つべきではないかなと。まあ、大きなことを言うておっても、その小さい縮図をひとつ、病院の周辺を基地にして、その菜種の種とりも既に計画しておるんですよ。私、ここらへまいてくれ、ここらへまいてくれって、それぐらいに晩に懐中電灯を持って行ってやっておるんですよ。

それを市内一円じゃなくても、やっぱりそういう拠点をつくって、そして、病院も喜んでいただけるし、あやの台には。橋本市にぜひ住んでみたいな。子や孫には高野山に行く帰りの年寄りの方らを孫にぜひとも、この高野山のふもとのまちは何よと、あれどこよと。ここで住みたいな、そういう気持ちを起こさせるといふこと、それによってやはり企業誘致もどんどん並行していくことが橋本市のまちの発展の成功につながるのではないかな。

そういうことでございますので、また、これ、一部しか申し上げて。きょうは時間がございませんので、またひとつ、いろいろと構想を持ってございますから、ぜひとも阪本先生、ご丁寧な有意義なご質問、今度からこれだけにしておいてくれ。

議長（上田順康君）よろしいか。

これをもって、22番 阪本君の一般質問は
終わりました。

この際、議長より申し上げます。本日の会
議時間は、議事の都合により、あらかじめこ
れを延長いたします。

ただ今から4時50分まで休憩いたします。

(午後4時36分 休憩)